

B 107 各種衣料用洗剤の黄変に及ぼす影響

ライオン家庭科学研究所 ○宮井真子 田中文三 渡辺真郎
戸張真臣 永山升三

目的 衣料用洗剤は、合成洗剤・粉石けん・複合石けんと多様化しているが、これらの洗剤の衣料の黄変に及ぼす影響について検討し、黄変の挙動を明らかにすることを目的とする。

方法 衣料用洗剤としては、粉石けん、複合石けん、合成洗剤（いずれも市販品）を用い、綿×リヤスを以下の条件でくり返し10回洗浄した。洗浄温度：25℃，洗浄時間：10分間、浴比：1：30，すすぎ時間：3分間，1回，2回，3回（粉石けんのみ），硬度：4°DH，10°DH，乾燥方法：屋外干し，室内干し，放置時間：直後，3ヶ月，6ヶ月（25℃，65%RHにて保存）

結果 ① 合成洗剤は、放置による黄変の進行がほとんどないが、粉石けん、複合石けんの場合は、放置により黄変が進行し、3ヶ月後で合成洗剤との差が顕著となる。② 用水の硬度が4°DHから10°DHになると、いずれの洗剤も黄変度は増加するが、この傾向は、合成洗剤、複合石けんに比べて粉石けんの場合が顕著である。③ 複合石けんの黄変は、4°DHの場合、粉石けんと同程度であるが、10°DHの場合、粉石けんより小さく、合成洗剤よりやや大となる。これらは、粉石けんの残石けん量が4°DHに比べて10°DHで増大するのに対し、複合石けんの場合は、4°DHと10°DHで大差ないことに起因する。④ いずれの洗剤も、すすぎ回数が増えると、洗浄直後の黄変度は増加する。しかし、粉石けん、複合石けんでは、放置することにより、すすぎ回数の少ないものほど黄変は顕著に進行する。